



## 大分県書道

令和6年4月号 No. 406

### 「書写と書道」

私たちは、何のために書の勉強をするのだろうか。下手だから上手になるためにやるのだろうか、それとも得意だから更にそれを伸ばすためにやるのだろうか、もちろん両方の型があると思います。

長年教室で子どもを指導して感じることは、下手だから勉強したいという方が圧倒的に多いような気がします。

書写指導に打ちこんでいた時、優秀な子どもたちがたくさん出てきました。しかし現在、大人の人に指導してみると、子供の時上手だった人で、大人になってからも書が続いている人は案外少ない気がします。子供の頃、怠けて熱心に書かず親が行けと言うので、遊び半分書きに来て

いた人が、結婚式等で署名をすらすらと書けて、年賀状を墨できれいに書きたいとの思いで、恥をしのんで習いに来る人が案外多いのです。その人が長年稽古を続け、本格的に勉強するようになり、多くの展覧会に出品して一家を成しお弟子さんを指導している人がたくさんいます。

書写の勉強は、たしかに文字を正しく上手に書けるための勉強ですが、書道は、それを芸術作品として表現する世界です。正しく美しい書写の字をいくら並べても、書とはならないのです。上手に書くことと、美的に表現するということは、全く違った分野です。芸術の書は、個性があります。いい作品というのは、理屈ぬきに、見る人の心を打つ

副会長 山本隆之  
(雅風)

のです。人は誰もがすばらしい才能を持っていきます。自分一人の力では、その才能を取り出し、伸ばしていくのは難しいのです。そこに良き指導者が必要になります。皆さんも思いきってどんどん新分野にチャレンジしましょう。

